

	ナボルパップ70mg	ナボルパップ140mg
承認番号	22000AMX00250000	22000AMX00249000
販売開始	2006年8月	

経皮鎮痛消炎剤(無臭性)

ジクロフェナクナトリウムパップ

ナボル®パップ 70mg

ナボル®パップ 140mg

NABOAL® Paps 70mg

NABOAL® Paps 140mg

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等により誘発される喘息発作)又はその既往歴のある患者[重症喘息発作を誘発するおそれがある。][9.1.1参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	ナボルパップ70mg	ナボルパップ140mg
有効成分	1枚中 日局ジクロフェナクナトリウム 70mg	1枚中 日局ジクロフェナクナトリウム 140mg
添加剤	アジピン酸ジイソプロピル、エデト酸ナトリウム水和物、カオリン、カルメロースナトリウム、乾燥亜硫酸ナトリウム、乾燥硫酸アルミニウムカリウム、濃グリセリン、ジブチルヒドロキシトルエン、D-ソルビトール液、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸メチル、pH調節剤、ポリアクリル酸ナトリウム、その他6成分	

3.2 製剤の性状

販売名	ナボルパップ70mg	ナボルパップ140mg
剤形・性状	白色～淡褐色の膏体を支持体に展延し、膏体表面をライナーで被覆したパップ剤である。	
大きさ	7cm×10cm	10cm×14cm
識別コード	HP306P	HP307P

4. 効能又は効果

下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎

変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛(筋・筋膜性腰痛症等)、外傷後の腫脹・疼痛

6. 用法及び用量

1日1回患部に貼付する。

8. 重要な基本的注意

- 8.1 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- 8.2 慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には、薬物療法以外の療法も考慮すること。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 気管支喘息のある患者(アスピリン喘息又はその既往歴のある患者を除く)

アスピリン喘息ではないことを十分に確認すること。気管支喘息の患者の中にはアスピリン喘息患者も含まれている可能性があり、それらの患者では重

症喘息発作を誘発するおそれがある。[2.2参照]

9.1.2 皮膚感染症のある患者

感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に使用すること。皮膚の感染症を不顕性化するおそれがある。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。

シクロオキシゲナーゼ阻害剤を妊娠中期以降の妊婦に使用し、胎児動脈管収縮が起きたとの報告がある。また、シクロオキシゲナーゼ阻害剤(経口剤、坐剤)を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

10. 相互作用

10.2 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ニューキノロン系抗菌剤 レボフロキサシン等	痙攣を起こすおそれがある。痙攣が発現した場合には、気道を確保し、ジアゼパムの静注等を行う。	ニューキノロン系抗菌剤が脳内の抑制性神経伝達物質であるGABAの受容体結合を濃度依存的に阻害し、ある種の非ステロイド性抗炎症剤との共存下ではその阻害作用が増強されることが動物で報告されている。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

* 11.1.1 ショック、アナフィラキシー(いずれも頻度不明)
ショック、アナフィラキシー(蕁麻疹、血管性浮腫、呼吸困難等)があらわれることがある。

11.1.2 接触皮膚炎(頻度不明)

使用部位に発赤、紅斑、発疹、そう痒感、疼痛の皮膚症状があらわれ、腫脹、浮腫、水疱・びらん等に悪化し、さらに全身に拡大し重篤化することがある。

11.2 その他の副作用

種類	頻度		
	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
皮膚	皮膚炎、そう痒感、発赤、皮膚のあれ、刺激感	水疱、色素沈着	光線過敏症、浮腫、腫脹、皮膚剥脱

注)1%ジクロフェナクナトリウム軟膏における発現頻度

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

- 14.1.1 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
- 14.1.2 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

* 15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

本剤は添加剤として亜硫酸塩を含有している。喘息患者では非喘息患者よりも亜硫酸塩に対する過敏症が多く認められるとの報告がある。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

16.1.1 生物学的同等性試験

健康成人男子の背部に、本剤及び膏体中にジクロフェナクナトリウムを1%含有するテープ剤を貼付した時の角質中ジクロフェナク濃度は同等であった¹⁾。

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 国内臨床試験

1%ジクロフェナクナトリウム軟膏における二重盲検試験を含む935例の臨床試験結果より得られた改善率は以下のとおりである²⁻¹⁷⁾。

疾患名	改善率(%) (中等度改善以上/評価例数)
変形性関節症	63.7 (135/212例)
肩関節周囲炎	60.0 (81/135例)
腱・腱鞘炎、腱周囲炎	66.9 (85/127例)
上腕骨上顆炎	66.0 (70/106例)
筋肉痛	74.6 (153/205例)
外傷後の腫脹・疼痛	78.0 (117/150例)
計	68.6 (641/935例)

(1%ジクロフェナクナトリウム軟膏の臨床成績)

17.3 その他

17.3.1 国内臨床試験(皮膚安全性試験)

健康成人男子の背部に、脊椎を境に左右対称となるように本剤及びプラセボを貼付し、パッチテスト並びに光パッチテストを行ったところ、本剤及びプラセボ貼付部位のいずれにおいても光じん麻疹性、光毒性は認められなかった¹⁸⁾。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

酸性非ステロイド性消炎鎮痛剤の作用機序は、主としてアラキドン酸代謝におけるシクロオキシゲナーゼの活性を阻害することにより、炎症、疼痛等に関与するプロスタグランジンの合成を阻害することとされている。

18.2 抗炎症作用

18.2.1 急性炎症

1%ジクロフェナクナトリウム軟膏は、カラゲニン足趾浮腫(ラット)、紫外線紅斑(モルモット)で、1%インドメタシン軟膏と同程度の抗炎症作用を示した。また、カラゲニン誘発炎症足中(ラット)のプロスタグランジンE₂の産生を有意に抑制した¹⁹⁾。

なお、本剤はカラゲニン足趾浮腫試験(ラット)で、1%ジクロフェナクナトリウム軟膏と同等とされたテープ剤と同程度の抗炎症作用を示した²⁰⁾。

18.2.2 亜急性・慢性炎症

1%ジクロフェナクナトリウム軟膏は、マスタード足趾浮腫(ラット)、ペーパーディスク試験

(ラット)、アジュバント関節炎(ラット)で、1%インドメタシン軟膏と同程度の抗炎症作用を示した¹⁹⁾。

なお、本剤はマスタード足趾浮腫試験(ラット)、アジュバント関節炎試験(ラット)で、1%ジクロフェナクナトリウム軟膏と同等とされたテープ剤と同程度の抗炎症作用を示した²¹⁾。

18.3 鎮痛作用

1%ジクロフェナクナトリウム軟膏は、酢酸ライジング疼痛試験(マウス)、イースト疼痛試験(ラット)で、1%インドメタシン軟膏と同程度の疼痛抑制作用を示した¹⁹⁾。なお、本剤はビール酵母誘発疼痛試験(ラット)で、1%ジクロフェナクナトリウム軟膏と同等とされたテープ剤と同程度の疼痛抑制作用を示した²²⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

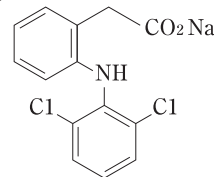
一般の名称:ジクロフェナクナトリウム(Diclofenac Sodium)

化学名:Monosodium 2-(2,6-dichlorophenylamino)phenylacetate

分子式:C₁₄H₁₀Cl₂NNaO₂

分子量:318.13

構造式:



性状:白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。メタノール又はエタノール(95)に溶けやすく、水又は酢酸(100)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。吸湿性である。

融点:280℃(分解)

22. 包装

<ナボールパップ70mg>

70枚[7枚/1袋×10袋]

<ナボールパップ140mg>

70枚[7枚/1袋×10袋]

280枚[7枚/1袋×40袋]

23. 主要文献

- 1) 久光製薬社内資料.健康成人を対象とした皮膚薬物動態学的試験.
- 2) 久光製薬社内資料.ジクロフェナクナトリウム1%軟膏の臨床試験に関する資料.
- 3) 宗広忠平 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 407-17.
- 4) 真鍋 等 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 419-26.
- 5) 青木虎吉 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 427-43.
- 6) 青木虎吉 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 445-67.
- 7) 青木虎吉 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 469-88.
- 8) 青木虎吉 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 489-503.
- 9) 長屋郁郎 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 505-19.
- 10) 竹光義治 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 521-7.
- 11) 渡辺好博 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 529-38.
- 12) 小野啓郎 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 539-55.
- 13) 岩崎勝郎 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 557-66.
- 14) 高橋栄明 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 567-76.
- 15) 山野慶樹 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 577-85.
- 16) 井形高明 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 587-94.
- 17) 杉岡洋一 ほか: 臨床医薬 2000; 16(4): 595-609.
- 18) 久光製薬社内資料.健康成人を対象とした皮膚安全性試験.
- 19) 久光製薬社内資料.ジクロフェナクナトリウム1%軟膏の薬理作用に関する資料.
- 20) 久光製薬社内資料.ラット・カラゲニン誘発足趾浮腫モデル.
- 21) 久光製薬社内資料.治療効果における薬力学的同等性.
- 22) 久光製薬社内資料.ラット・ビール酵母誘発炎症性疼痛モデル.

24. 文献請求先及び問い合わせ先

久光製薬株式会社 お客様相談室

〒135-6008 東京都江東区豊洲三丁目3番3号

TEL. 0120-381332

FAX. (03)5293-1723

受付時間/9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く)

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

久光製薬株式会社

〒841-0017 鳥栖市田代大官町408番地

製造販売元



久光製薬株式会社

〒841-0017 鳥栖市田代大官町408番地